

# 幼児の運動と集団指導



岡 本 卓 夫

## △幼児の集団指導の必要性▽

子どもは、家庭に生れ、親や兄弟姉妹とともに形成する家庭社会の成員として大きくなっていく。しかし、だんだん成長するとともに、このような家庭社会の外に、子どもたちだけの社会を形成していくようになる。幼稚園とか保育園（所）への入園は、このような社会への転機であって、今まで依存していた親たちから離れて、次第に仲間との関係の方に親密の度を加えていく時期である。しかも、この時期は、いわゆる「遊びの生活」の時代であって、仲間との親密の度合も、また種々なる遊びを通して次第に深くなっていくものである。

したがって、このような時期に、かかる彼らの特質をキャッチし、そこに、彼らの発達に応じた適切な集団指導をすることは、き

わめて重要なことであり、しかも有効適切なことである。それによつて、小学校前段階としての幼児教育もまた一層の充実をもたらすものである。

## △幼児の運動と集団指導▽

では、彼らの身体運動的遊びの場面における集団指導はいかにすればよいであろうか。この問題を解決するにあたっては、先ず、彼らの運動的遊びの場面をとらえ、そこからヒントを見出していくのが賢明であろう。

### 一、身体運動的遊びの場面

#### (1) 遊びの展開

さて、幼稚園や保育園（所）における彼らの遊びを観察するに、

彼らは、走ったり、とんだり、はねたり、あるいはボールを投げ、すべり台をすべり、ジャングル・ジムをよじ登るなど、不器用ながらも、きわめて活動的・活発な身体運動をともなう遊びを、ひとり、ふたり、あるいははもつと大勢の仲間とともにさかんに行なっている。しかも、かかる遊びの場面は、いろいろの子どもによって構成されていて、例えば、男の子と女の子が一しょになって遊んでいる場合もあるし、別々に遊んでいる場合もある。あるいはまた年長児と年少児が一しょになって遊んでいるという場合もある。

このように、彼らの遊びは、まことに多種多様で、しかもそれが「ひとり遊び」とか、あるいは「連合遊び」という形式をとっている場合もあれば、時には、その結びつきは低いが「協同的遊び」の形式をとっているという場合もあって、そのメンバーの人数や構成あるいは遊びの様式や内容も全く一様ではない。このような場面が園内のいたるところで展開されているのであるから、彼らの遊びの場面は実に複雑である。

## (2) 遊びの崩壊

ところが、このような遊びの場面がいつまでも続くかというところはいかない。ある場合には、仲間に遊具を独占されて使えないような時もあるし、またある場合には、叩かれたり、つき倒されたりするような時もある。それが活発な運動的遊びの場であるだけに多く起りうるわけである。一般に、このような場面は、彼らの遊び方、

の理解とか、あるいは自己主張や自己表現のテクニックの未熟さなどから誘発するもので、かかる場合、その遊びは中断されるか、あるいは崩壊してしまうものである。

## ③ 遊びの再構成

しかし、たとえこのようになって、その遊びが中断されたり、あるいは崩壊しても、彼らは、すぐにまたその遊びを復旧するか、あるいはまた別に新しい遊びや相手を見つけて遊んでいくもので、彼らは、常に、彼らなりに遊びを再構成していく特質をもっている。

このように、彼らの遊びは、それが「ひとり遊び」の場合であろうと、「連合遊び」の場合であろうと、あるいはまた「協同的遊び」の場合であろうと、たえず展開——崩壊——再構成の過程をとっているのであって、その度ごとに、場の雰囲気やモラル(Morale)もかわり、きわめて不安定な遊びや遊び集団である。

以上のようなことが、活発な身体運動的遊びの場面であえず起っているのであるから、この場面をとらえての集団指導は、きわめて困難な仕事といわねばならない。

## 二、集団指導とその方法

幼稚園や保育園(所)における幼児の身体運動的遊びの集団指導は、このような活発な運動的遊びのいろいろの展開場面をとらえ、そこにもり上がっている彼らの欲求を阻止したり、あるいは遊びを

崩壊させたりしないようそれをもりたて、できるだけみんなが仲よく、楽しく遊べるように、教育的観点から指導の手を差しのべてやることである。すなわち、教師は、子どもとともに遊びながら、ある場合にはひとり遊びの子どもに、またある場合にはグループ遊びの子どもにという具合に、その場その場で彼らの遊びをとらえ、その遊びの状態に応じて適切な指導をし、彼らが、よるこんでその遊びをするようにさせ、ひとり遊びしかできなかった子どもも、だんだんグループ遊びができるように、そして、単なるグループ遊びしかできなかった子どもも、仲間との活発な話し合いで遊びができるように、さらには、長時間、大ぜいの仲間とともに仲よく遊びができるように援助してやることである。

しかし、このようにいっても、その効果をあせりすぎてはいけない。あせりすぎると、かえって彼らの伸び伸びと遊びたい欲求を阻止することになって、集団指導に逆効果をまねく結果になりかねない。あくまでも徐々に、そして気長に進めていくことが大切である。では、具体的にはどのようにすればよいか。それはいうまでもないこと、幼稚園教育目標の「園内において、集団生活を経験させ、喜んでこれに参加する態度と協同、自主及び自律の精神の芽生えを養うこと」を目標とすべきであって、この目標をおさえながら、右にのべた方法で指導を進めていけばよいのである。

次に、その場合の主なる留意点についてのべてみよう。

(1) ひとり遊びや傍観的行動の子どももよるこんでみんなと遊べるようにしてやる。

はじめに集団生活を経験する子どもの中には、あまりにも大勢の仲間とか、あるいはあばれん坊の子どもなどに圧倒されて、ひとりでもちこまっっているような子どもがずいぶんいるものである。このような子どもにも、大勢で遊ぶ楽しさを教えてやるのがたいせつである。そのためには、彼らの好むいろいろの運動遊具を利用するのが賢明である。中でも、ボールは最適の遊具といえよう。このよなものを利用し、はじめは教師と遊べるようにさせ、なれてきたら、誰か他の仲間をひとり見つけてやって、ふたりで仲よく遊べるように指導するのがよい。かようにして、だんだんと誰とでも遊べるようにしてやることである。

(2) グループの人数を考えて遊ばせること。

このようにいっても、彼らを仲よく遊ばせるためには、それに応じたグループの人数を考えることがたいせつである。集団指導がだいいだからといっても、あまりにも多人数のグループを考えてはならない。彼らばかりの自由遊びでなら、先ず、彼らの年令に相当した人数、例えば、五才児なら五人くらいの人数で仲よく遊べればよいであろうし、また、教師の指導のもとに遊ばせるなら、これよりも幾分大きなグループ、すなわち、四才児なら五、六人、五才児なら八、九人、六才児なら一〇〜一五人くらいのグループで遊ばせ

てもよいであろう。これ以上になると、運動的遊びの場では、いろいろと欲求不満も起り易いのでグループも崩壊しやすい。この点、十分考えて指導せねばならない。

(3) 協力して自主的に遊べるようにさせること

身体運動的遊びの場では、きまりや約束を守って遊ばねばならない場面が非常に多い。一般に、この期の子どもは、自己中心のわがまま勝手なことをしたがるのが普通である。だが、このような機会に、みんなで仲よく一しょに遊ぶのがよりおもしろく、より楽しいものであるということを教え、協力し合って自主的に遊べるようにすべきである。グループの人数を考えることもたいせつではあるが、余り人数にこだわりすぎないようにせねばならない。それよりも、むしろ遊び方、すなわち内容の方に重点をおくことが、この期の子どもの集団指導としてだいじなことであろう。

(4) 創造性を利用しそれをのびしながら指導すること。

この期の子どもの特徴は、非常に創造的であるということである。したがって、これを利用して、彼らに、集団での楽しい遊び方や協力のし方を創造させるようにしなくてはならない。例えば、一個のボールを、ふたたび取り合っているというような場面を見つけた時には、「ふたたび取り合ってたって遊べないでしょ。ふたたびが仲よく遊ぶにはどのようにしたのがいいの?」というように、彼らに問題を投げかけ、その創造性を利用して、彼らなりに解決させていく

ように指導していくのがよい。

(5) のぞましい「体育的集団遊び」を用意すること。

いかに仲間をつくり、人数を制限し、協力や自主性あるいは創造性をのばすように指導しようとしても、子どもたちおたがいの仲間があるひとつの目標をもって結びつくような、おもしろい「体育的集団遊び」を提供しないかぎり、その目的を達成することはできない。彼らが、よろこんでその遊びに参加してこそ協力性や自主性、あるいは創造性も伸ばすことができるのである。したがって教師は彼らの運動的遊びのいかなる場面にも適応させていくだけのいろいろのおもしろい遊びを十分研究しておくことがたいせつである。と同時に、その与え方も十分知っておかないといけない。すなわち、あくまでも、彼らの遊びの「流れ」や「人数・構成」あるいはそれによってかもしだされる「場の雰囲気」などを考え、できるだけ「自然」に与えていくようにしなければならない。

以上、紙面の都合でその大まかな留意点のみ挙げてみたが、実際問題として、身体運動的遊びの場には、他の分野で到底考えられないほど多種多様に集団指導の場が存在しているのであるから、教師は、その場面を見つけ次第、その場その場で集団での遊び方を指導していくことがたいせつである。

× × ×